



WE SUPPORT
YUUAI EMERGENCY MEDICINE
DOCTOR CAR
YUUAI MEDICAL CENTER, OKINAWA



救急車型ドクターカー 活動状況のご報告

改めまして、この度は、私たちの救急車型ドクターカー導入プロジェクトへのご支援、
本当にありがとうございました。
プロジェクトメンバー一同、皆様に改めて心からの感謝を申し上げます。



【クラウドファンディングを通じて

「沖縄の救急、地域医療のために。救急車型ドクターカー導入に支援を！」と銘打って、2024年5月13日～7月31日までの79日間、多くの皆様方に私たちの日頃の活動や、地域の救急医療に懸ける私たちの思い、私たちの夢について知っていただく活動を行いました。そして、私たちの思いに賛同してくださった800名以上の皆様から、目標金額を大きく上回る23,069,000円ものご支援をいただき、無事に救急車型ドクターカーを導入することができました。またなにより、このクラウドファンディング活動を通じて私が得た大きな収穫は、これまで孤独だと思っていた私たち救急科スタッフの日々の戦いが、実は私たちの知らないところで多くの皆様に認識され、尊敬され、支えられていたということを知ることができたということです。それは、私たちスタッフにとって自信につながったとともに、これか

らの私たちの活動への責任の重さを改めて実感するきっかけになりました。
改めまして、79日間の長きに渡って私たちに伴走し、ご支援し続けてくださった皆様に、心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



【救急車型ドクターカーを導入して】

今回、皆さまのご支援によって無事に導入することができた救急車ドクターカーの使用目的は以下の通りです。

①救急医療体制の強化

より良い救急医療体制を構築して、
安全な地域づくりに貢献したい！

②持続可能な地域医療体制の構築

みんなが安心して必要な医療を受けられる
体制を作り、地域の医療を守りたい！

③災害対応能力強化

「もしものとき」にもみんなから
頼られる存在になりたい！

皆さまのお力添えで導入できた救急車型ドクターカーは、2024年8月末に無事に友愛医療センターに納車されました。その後、9月に試験運用を行い、10月から本格運用を開始しました。試験運用開始からこれまで（2024/9/6～2024/11/12）の約2ヶ月間の搬送実績は以下の通り【表1】になります。

ちなみに、この救急車型ドクターカーを使用しての初めての患者搬送は、重症な怪我を負った小児の患者様を専門医療機関へ緊急搬送する上り搬送でした。以前であれば所轄消防署の救急車を要請して搬送していたような症例でしたが、みなさまのご支援で導入した救急車型ドクターカーで、医師、看護師、救急救命士同乗のもと、輸血などの処置を継続しながら、より安全に受け入れ先へ搬送することができました。また、人工呼吸器やいわゆるECMOと呼ばれる人工心肺、補助循環装置が装着されているような非常に重症な患者様の搬送もすでに行なっております。さらには、離島から自衛隊ヘリで沖縄本島まで運ばれてきた患者様の、那覇空港基地から当院への搬送などにも使用しております。このように、みなさまのお力ですでにたくさんの大切な命が救われ、これからも救われ続けていくことを、改めてここにご報告させていただきます。本当にありがとうございます。

【表1】

区分	搬送元	搬送先	件数
下り	友愛医療センター	他医療機関	37
上り	他医療機関	友愛医療センター	32
上り	友愛医療センター	他高度医療機関	5
その他	(お看取りのためERからご自宅へ)		1
合計			75



【これから】の展望

友愛医療センター

救急科部長 **山内 素直**

今回の救急車型ドクターカーの導入を弾みにして、「持続可能な救急医療体制の構築」に向けての取り組みを加速させていきたいと思います。具体的には、今後もグローバルスタンダードの救急医療を提供して救急患者の受け皿としての当院の役割を着実に果たしつつ、地域の各医療機関との連携体制をさらに強化し、それぞれの医療機関の役割に応じた医療資源の有効活用を進めていきます。また、災害発生時にはDMATカーとして被災者の方々に医療を提供する使命を果たすためも、引き続き関係機関との定期的な訓練や情報交換を継続して参ります。

改めて、「より安心して暮らせる、より安心して訪れることのできる沖縄へ」を目標に、みなさまから頂いたお

力と共に頑張ってまいりますので、引き続き応援よろしくお願いいたします。そして、みなさまにおかれましても、「地域の医療は地域で守る」ということを意識いただけますと幸いです。

皆さまの中には、もうすでに私たちの救急車型ドクターカーが走っているのを街中で目撃された方もいらっしゃるかもしれません。これから私たちのドクターカーが緊急走行しているのも見かけた際は、ぜひ安全に注意して道を譲っていただき、心の中で応援していただければ嬉しく思います。

そして最後に改めまして、私たちの夢の実現へのみなさまからのご支援、本当にありがとうございました。プロジェクトメンバー一同、心より感謝申し上げます。

友愛医療センター

救急科 救急救命士 **仲里 玲哉**

この度は私どもの高規格救急車にご支援いただきありがとうございました。

9月の試験運用開始以来、すでに75件もの搬送がありました。その中で重症な患者さん搬送や施設間搬送などたくさんの搬送に関わらせていただきましたが、特に印象的だった搬送が初回の小児重症外傷の患者さんで点滴や輸血などをしている方の高次医療

機関への搬送でした。従来であれば消防の救急車で搬送をお願いしていたのですが当院の高規格救急車を活用して安全に搬送を行うことができました。

今後も救急医療の強化と災害医療機能の強化に励み高規格救急車を安全に運行し地域医療貢献に努めていきたいと思います。引き続きご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。



友愛医療センター

地域連携室 池間 みづえ

平素より当院の活動にご理解とご支援を賜りまして誠にありがとうございます。

この度は皆様の温かいご支援により救急車型ドクターカーを無事に導入することができました。心より御礼申し上げます。おかげさまで、当院の医療スタッフは緊急性の高い患者さんのもとへ迅速に駆けつけ、搬送中も高度な医療を提供することが可能となり、実際に、救急車型ドクターカーが導入されて以来、地域のクリニックや連携病院からの緊急搬送依頼に対応できるようになりました。また、急性期の治療を終えた患者さんを他院へ安全に転院搬送する際にも大変重宝されております。

導入から約2ヶ月が経過した活動の中で、特に印象深いエピソードをご紹介いたします。当院救急外来より救急車型ドクターカーで他院へ患者さんを送り届けた際、転院先の医療機関で別の患者さんが急変する事態に遭遇しました。その医療機関では対応が難しい症例であったため、急遽そのまま当院へ搬送することとなりました。このような偶発的な出来事にも迅速に対応できるたことで、地域の医療機関と良好な連携がさらに強化されたと感じております。これもひとえに皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

今後も地域医療の充実と医療連携の強化に努めて参ります。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

友愛医療センター

救急科 看護師長 立津 由美子

このたびは、救急車型ドクターカー導入に多大なるご支援誠にありがとうございました。9月に車両が到着し、車内装備の整備やプレ走行を経て、10月からの本格運用開始まで約1ヶ月を要しました。

この期間の中で、ひとり、重篤な状態ではあったものの、自宅に帰りたいと言う思いが強い患者さんがいました。家族もそれを望んでいました。この患者さんは呼吸状態が思わしくないため、機械をつけたままの帰宅となります。帰宅の準備を早急に整え、自宅まで救急車型ドクターカーで酸素を使用しながら、機械を装着した状態で搬送しました。今まででは、この様な状態で

帰宅する場合は、準備に時間がかかりましたが、新たに救急車型ドクターカーが導入されたことで、これまでにないほど早急に対応ができ、かつ安全に自宅まで送り届ける事ができました。ご自宅ではたくさんのご家族が迎えてくださり、搬送に関わった私達も「よかったです」と思うことができました。

搬送業務には、様々な状態で搬送する患者さんがいます。どの患者さんにも柔軟に対応できるようスタッフ一丸となって取り組んで参ります。今後とも、応援宜しくお願ひします。



【御披露目会を開催しました!】



2024年11月16日、友愛医療センターにて救急車型ドクターカーの御披露目会を開催いたしました。

開始直前にはドクターカーの緊急出動や、救急車3台が立て続けに到着したり、さらには大雨にも見舞われたりしましたが、式の開始とともに救急要請が落ち着き、雨も止んで、なんとか無事に開催することができました。

御披露目会には、糸満市の當銘真栄市長、豊見城市福祉健康部の金城博文部長をはじめとする地元自治体、消防関係者の皆様、地域住民の方々、私たちのプロジェクトをご支援いただいた多くの方々に足をお運びいただき、新しい救急車型ドクターカーを皆さんに御披露目することができました。

そして改めて、無事に救急車型ドクターカーを導入できた報告ができた喜びと同時に、私たちに託された地域の救急医療への貢献という責任の大きさを感じた次第です。

これからも地域のためにより良い救急医療を提供できるよう、スタッフ一同、頑張ってまいります。

引き続きご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ちなみに、この救急車型ドクターカーを使用しての初めての患者搬送は、重症な怪我を負った小児の患者様を専門医療機関へ緊急搬送する上り搬送でした。以前であれば所轄消防署の救急車を要請して搬送していたような症例でしたが、みなさまのご支援で導入した救急車型ドクターカーで、医師、看護師、救急救命士同乗のもと、輸血などの処置を継続しながら、より安全に受け入れ先へ搬送することができました。また、人工呼吸器やいわゆるECMOと呼ばれる人工心肺、補助循環装置が装着されているような非常に重症な患者様の搬送もすでに行なっておりまます。さらには、離島から自衛隊ヘリで沖縄本島まで運ばれてきた患者様の、那覇空港基地から当院への搬送などにも使用しております

このように、みなさまのお力ですでにたくさんの大切な命が救われ、これからも救われ続けていくことを、改めてここにご報告させていただきます。本当にありがとうございます。

友愛医療センター
救急科部長 山内 素直
プロジェクトチーム一同